海・いのちの故郷　ネットワーク
海浜 ボランティア
第24号　2009年9月1日
NPO法人北海道海浜美化を進める会
TEL・FAX 011-582-5378　会長：水崎　呈　発行責任者：湯朝　肇
ホームページ　www.hamabika.org
セブン・イレブンみどりの基金に協力いただいています

オロロン海岸にて海浜美化ツアー

郷土の香りふんだんに、額に汗してゴミ拾い

小平町での清掃活動

大学生や小学生を含めて約30人が美化活動に

豊かな自然に触れ合いながら環境への知識と交流を深める「オロロンラインエコツーリズムin羽幌2009」が、9月12日、13日の2日間にわたって開催されました。真っ青な秋空が広がるなかで、札幌からは大学生や小学生を含めて約30人が美化活動に参加。羽幌町の郷土の成り立ちなどを勉強する中で、道央海岸の位置づけや環境保全への重要性を改めて認識する機会となりました。

第一日目は小平町での活動。札幌市内からバスで3時間ほどかけて到着した場所は町の施設「夕遊創」。オロロンラインでのエコツーリズムは今回が3回目。昼食を食べ終わると、参加者はすぐさま小平町花岡海岸に直行。そこで1時間半ほどゴミ拾いを行いました。実は、花岡海岸は昨年も美化活動を行ったところですが、今年は昨年に比べゴミの量が非常に多かったのが印象的でした。とくに、今年は土嚢が流れ着き、その袋が海岸に埋まっていたため、それを取り除くのに難儀しました。結局、ゴミの量は270キロとなりました。ゴミ拾いが終わった後は、Ｐコネクションの藤田善博さんを中心にゲームで交流を深めました。

海外から流れてきたゴミ

海鳥センターの石郷岡さんから、焼尻、天売島の様子を教えてもらう

夕遊創に戻ってからは夕食の準備。大人も子供も総出ですき焼きの準備をしながらネギや豆腐を切ったり、終始にぎやか。その甲斐あってすき焼きはとても美味しく、それに加えて大人の男性人が急きょこしらえたきゅうりとキャベツの漬物が、すき焼きを一層を美味しくさせました。

食事の後は、札幌学院大学の奥谷浩一教授のお話。その日、韓国から帰国した足でツアーに合流。忠清道から全羅道を旅した韓国体験紀行は、臨場感がありとても刺激的でした。

第2日目は、活動の場を羽幌町に移し、交流を深めました。さっそく、同町の北海道海鳥センターの石郷岡卓哉さんから焼尻、天売島の様子を教えてもらいました。

また、次の訪問場所である羽幌郷土資料館に向かいました。ここの資料館には、巨大なアンモナイトが多数展示されていることで有名ですが、そのほかにも、世界でも珍しい藻の化石、さらに焼尻島で見つかったオホーツク文化や擦文文化の土器、矢ジリなど学術的にも貴重な資料が展示されています。菊池瞳館長は丁寧に羽幌の歴史について教えて下さいました。

昼食の後は、羽幌町サンセットビーチでのゴミ拾いです。前日海が荒れていたせいか、漂着物がいっぱいです。約1時間半の活動の中で、約240キロのごみを収集しました。海岸には釣り糸に絡まったオオセグロカモメの死骸があるなど、海鳥に与える人間のエゴの影響を垣間見る機会となりました。

帰りのバスは、2日間の疲れが出たのか、爆睡する人が続出しましたが、それでも環境川柳を作り、それを披露し合いながら帰路に着きました。最後に、いくつか川柳をあげてみます。

「海鳥を 学びて思う エコ精神」
「あるゴミを 全部ひろって しまいたい」
「浜美化は 環境平和の 第一歩」

札幌学院大学の奥谷浩一教授

北海道海鳥センターの石郷岡卓哉さん

羽幌郷土資料館のアンモナイト

海鳥の死骸

羽幌町サンセットビーチでのゴミ拾い